



別所中だより

令和8年9月1日 9月号 - ①

八王市立別所中学校

八王市別所2-28

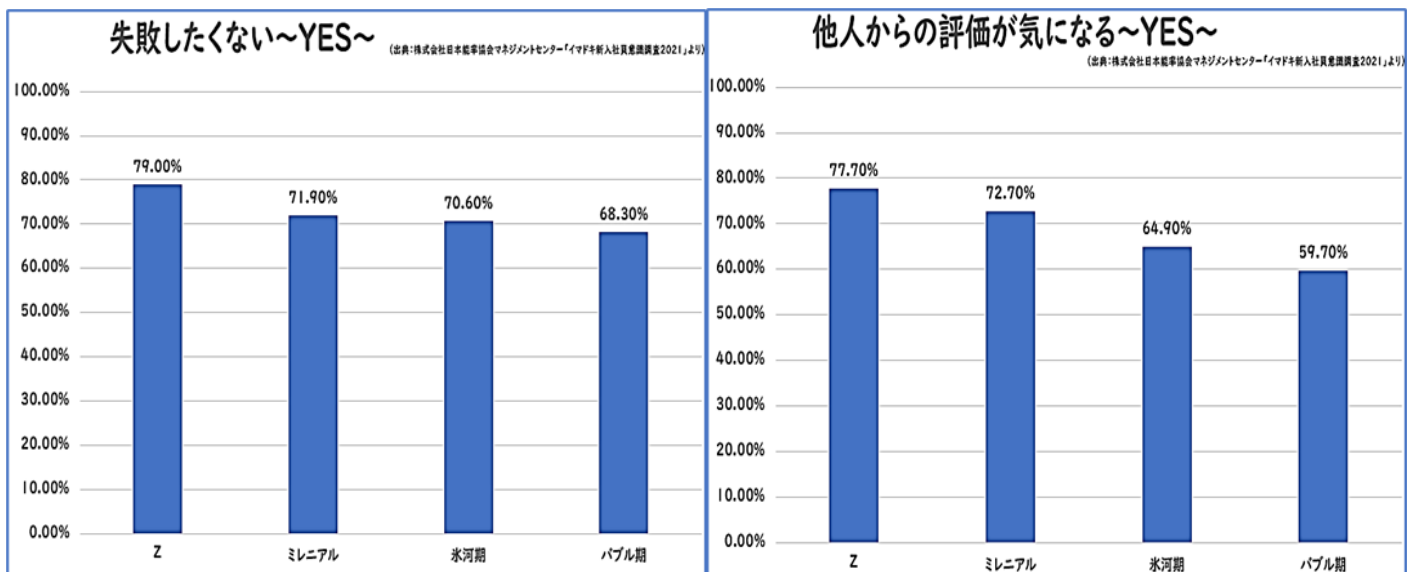
Tel 042-676-6635

～ ともに、より挑戦できる子どもたちに… ～

副校長 秋山 雅之

私の考える教員の責任とは、子どもたち一人ひとりがより成長できる学校になるように挑戦をすることです。もしそうであるのならば、我々が挑戦するのと同じように、子どもたちにも挑戦する意欲のある子にも育ててほしいものです。

しかしながら、「失敗するのが怖くて挑戦する勇気がもてない」というのは、以下のようなグラフを見ても、社会的な問題であることがよくわかります。



また、OECD 実施の PISA《学力到達度調査》2018 年のデータによると、日本という国は「世界一失敗を恐れる子どもが多い国」という不名誉な状態になってしまっています。小さい頃は、それほど失敗を恐れなかったのに、いつのまにか失敗したくないと思うようになってしまう。

この問題の出口は、きっと『すごい』という言葉をも再定義して使いこなさなければならないのではないかと、私は思っています。

なぜならこの「すごい!」という言葉は「〇〇さん、この前の模擬試験で1位だったんだって!すごい!」「〇〇くん、今度 サッカーで全国大会に出るんだって!すごい!」といった具合に、一般的に『手に入れたもの』に対して使われている気がするからです。

結果として「すごい人 = なかなか人が手にすることができないような良い結果を手にした人 or 他の人が持っていないものを手に入れた人」になっていくと思いませんか。

そうすると、自分もすごい人になろうとした時に、他の人が手にすることができないような結果を手に入れるしかなくなってしまいます。

そう思い込んでしまったら、何度挑んでも、それが簡単にできないということを理解してしまい、「私はすごくない」と思い込むことにつながって、徐々に挑戦するのが怖くなってしまいうるようになってしまいます。

そんなことをしては、成功体験を積んだ経験があったとしても、成功だけを続けるということが難しいため、失敗に対する恐怖が増してしまう一方です。

だからこそ大切なことは「すごい」という言葉を使う対象を変えることが必要なのだと思うのです。

もちろん結果を出した人もすごいですが、結果を出した人に対してだけではなく、挑戦した人、本気で何かに挑

んだ人に対して「すごい」と言葉にするようにしてみると世界が変わると思います。

「〇〇くん、将来の夢のためにクラブチームに入ったんだってすごいね!」「〇〇さん、次の模試でいい点取りたいからって、人が変わったように勉強し始めたらしいよ。すごいね!」これらは全て必ずしもいい結果が待っているわけではありません。

時には失敗することだってあるでしょうし、結局夢に届かず、終わってしまうことさえあります。

でも自分が口にする「すごい人」が「挑んだ人」に変わっていくだけで、自然と「自分もそうありたい」と思う対象が変わっていきます。

「自分もすごい人になりたい」と思ったら、「本気で何かに挑む人」になっていくのですから!

このように人は、日々自分が使っている言葉に驚くほど強く影響を受けています!

保護者のみなさんや我々教員も含めた世の大人たちが、子どもたちにかける「すごい」という言葉の対象を「結果」から「挑戦」に変えていくだけで、より早く自然に「何かに挑むのが好きな人」に育っていくかもしれません!

子どもたちなりにたくさんの挑戦をした時間だったことと思います。とはいえ、まだまだ通知表やテストの数値や体育大会の順位などに視点がいつている子が多いものです。

「挑戦できる子ほど成長する子はいません!」ということで、私たち大人も子どもたちに使っている「すごい」という言葉を、いっしょに見直してみませんか?よりよい成長にむけて、ともにがんばりましょう(^o^)/

【別中生の活躍・部活動3年生にとって最後の夏～続き～】

<サッカー部> 令和8年度 東京都中学校サッカー選手権大会 1回戦
別所・松が谷・松木中 0-2 国学院久我山中 敗退

<吹奏楽部> 「別所中学校吹奏楽部 サマーコンサート」
(演目) 1.「おジャ魔女カーニバル」 2.「ハトと少年」 3.「宿命」 4.「僕のこと」
EC.「名探偵コナンのメインテーマ」

不登校をテーマとした保護者サロンについて

教育委員会では不登校の子どもたちを支援するために、保護者対象の講演会を実施しています。講演の中で小グループに分かれ、参加者の皆さん同士で日頃感じている思いや悩みを語り合う時間も予定しています。どうぞお気軽にご参加ください。

1. 対 象 市内在住・在学の小・中学生の保護者
2. 日 時 令和8年10月9日(金) 午後5時45分から8時
3. 会 場 八王子市立第五中学校(八王子市明神町4-19-1)
4. 内 容 講演「不登校に関する基礎知識と義務教育終了後に活用できる高校進学以外の資源」
「第五中学校夜間学級について」
「夜間学級卒業生による体験談『卒業生が語る～夜間学級ってこんなところ～』」
夜間学級見学

5. 定 員 30名(先着順)

6. 受付開始日 令和8年9月7日(月)

こちらの2次元コードからお申し込みください。

<https://logoform.jp/form/iapr/1709037>

7. その他 会場に駐車スペースはありません。近隣の有料駐車場をご利用ください。

8. 問合せ 高尾山学園内 教育指導課登校支援担当

電話:663-3216

共催 学校教育部教育指導課/子ども家庭部青少年若者課(八王子市若者総合相談センター)

